

## ●鎌倉市本庁舎等整備市民対話（第 5 回）を開催しました。

鎌倉市では、平成30年（2018年）度末までを目標に、新たな本庁舎の基本構想の策定に向けた取組を進めています。

### 0. 実施概要

市民目線や市民感覚を取り入れた「本庁舎等整備基本構想」の策定を目指し、取組状況を市民の皆さまに広く共有するとともに、新たな本庁舎のあり方・理念について多様な意見を伺うことを目的として、鎌倉市本庁舎等整備市民対話（第 5 回・最終回）を開催しました。

### 1. 開催概要

市民対話（第 5 回）は、公募市民の方々を交えて開催した拡張ワークショップを含めたこれまでの市民対話（第 1 回～第 4 回）で話し合ってきた、新たな本庁舎のあり方と機能について振り返りながら、基本構想における基本理念や基本方針への反映について話し合っていました。その後、今後の本庁舎整備への関わり方などについて、意見をいただきました。

日時 平成30年11月3日（土）午後2時～4時

会場 鎌倉市役所 本庁舎4階 402会議室

出席者 市民対話メンバー13名

傍聴者2名

鎌倉市（行政経営部（服部）、公的不動産活用課（関沢、石塚、江川））

㈱都市環境研究所等（大野、西村、荻原\*、笥\*）

\*ファシリテータを務める。

プログラム

- (1) 対話の目的や進め方の共有
- (2) これまでの市民対話と拡張ワークショップの成果の振り返り
- (3) 現時点の基本理念案や基本方針案の共有
- (4) 成果に参加者の想いが込められているかについて対話
- (5) 一人一人の想いの共有  
(今後の本庁舎整備への関わり方、進め方などについて)
- (6) クロージング

### 2. 対話等の概要

#### (1) 対話の目的や進め方の共有

- ・ 鎌倉市からの挨拶に続き、ファシリテータから、本日の対話の目的と進め方について説明しました。

## (2) これまでの市民対話と拡張ワークショップの成果の振り返り

- ・ これまでの市民対話の成果を壁に貼り出し、ファシリテータの説明を受けながら、参加者全員で振り返りを行いました。



会場の様子（これまでの成果の振り返り）

## (3) 現時点の基本理念案や基本方針案の共有

- ・ 市民対話の成果を踏まえた本庁舎の基本理念案「コンパクトなスマート本庁舎」や基本方針案について、学識経験者等で構成する鎌倉市本庁舎等整備委員会における検討状況を確認しました。

## (4) 成果に参加者の想いが込められているかについて対話

- ・ 参加者全員でこれまでの市民対話の成果を振り返りながら、基本構想への反映の仕方について対話しました。対話の主な内容は、次のとおりです。

### 基本理念へのフィードバック：

- ・ 「コンパクト」という言葉はわかりやすく、これまでの対話の内容にも沿う。一方、「スマート」という言葉は、いろいろな意味や捉え方があるので、ピンとこない。できれば「スマート」という表現は変えてほしい。

### 基本方針へのフィードバック：

- ・ 5つの基本方針はまとめられすぎて、どの市でも使えるものに見える。もっと「鎌倉らしさ」を込めたい。市民対話から出た6つの意見グループの方が鎌倉らしさが出ている。また、建物（ハード面）のイメージが少し強い基本方針に見える。ソフト面ももっと含めたい。
  - ・ 鎌倉は複数のエリアに分かれているのが特徴であり、「ネットワーク」は大切という意見が多かった。「鎌倉らしさ」につながることもあり、市民の意見として残してほしい。
  - ・ 鎌倉で職住近接ができるように、企業向けの施策（例えば、ある程度の大きさの企業が入居できる空間の提供）をもっと考えてはどうか。
- ・ これまでと今後の進め方へのフィードバック：

- ・ 水害・浸水、ボーリング柱状図、交通費情報などの共有が不十分。
- ・ 広く公募の市民との対話もあるべき。
- ・ 平常時と緊急時（災害時）に必要な機能を洗い出して、分けて整理してはどうか。平常時はコンパクトでいいが、緊急時にも困らないことは示してほしい。



会場の様子（基本構想への反映についての対話）

#### (5) 一人一人の想いの共有

- ・ 今後の本庁舎整備の進め方と関わり方について、参加者一人一人から意見をいただきました。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公募制の対話の機会があるといい。移転して整備という方針に納得している人も、そうでない人もいると思うが、関わりたい人が関われる場が必要ではないか。皆が納得してというのは難しいが、対話の場は増やしていいと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私はこの場で関わただけで十分。あとは行政や市長、議会が市民対話やほかの市民の意見をくみ取って、市民にとって最善と思う方針で進めてくれればよい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新庁舎に関する情報公開を徹底し、市民が誰でも決定プロセスにアクセスできる環境を作してほしい。浸水についての情報公開が9月に遅れたときの市長のコラムにはがっかりした。鎌倉市ではそういったことはあってほしくない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本庁舎に関しては、ユーザーインターフェイスとユーザビリティの設計、サービスに関してもユーザーインターフェイスの設計が、どちらも市民との接点部分なので重要。最終的には市民との接点が全て。市民との接点については、市民を巻き込んで、使う側、提供する側両方の意見で設計してほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いろいろな意見があるが、コンパクトで効率的な本庁舎になってほしい。鎌倉らしい、鎌倉ならではの本庁舎にしてほしい。いろいろな人を巻き込んで、最後は行政、設計のプロに任せたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 深沢地区の比較優位性を明確にしてほしい。また、鎌倉市の50～100年計画の道路・住宅・商業等の大きなプランの中で、本庁舎はこうあるという位置づけがほしい。また、BCPの観点から、緊急時対応など含めて本庁舎がどうあるべきかも見据えるべきと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広い範囲で市民の意見を集め、反対の方も含めての対話の機会を持っていただきたい。障害者は災害弱者でもある。みんなにやさしい本庁舎であってほしい。</li> </ul>

- ・ 優しさと強さを併せ持つ、ハードもソフトも市民生活をほどよく支える本庁舎であってほしい。そして災害時にも頼れる歴史・文化都市へ。また、ハードとソフトを別々で考えるのではなく、抽象的なものでもなく、身近な、具体的なものにしてほしい。
- ・ 情報を正確に出してほしい。後から出てくるとぶれてしまう。本庁舎整備は深沢以外も視野に入れて、白紙の状態から市民の議論をたくさんして決めてほしい。反対意見も丁寧にくみ上げないと民主主義ではない。疑問や反対に思っている人が抜け、賛成の人しかいないのは寂しい。反対の人をつぶさない対話を。
- ・ せっかく市民対話に参加できたので、それを生かす場があれば参加したい。第4回では若いママ世代の方も参加されていた。子育て世代の方の意見をもっと聴く機会を作ってほしい。固定ではなく随時の参加を可能に。みなさん鎌倉が大好きだなと思った。
- ・ 喧々諤々でいいと思います。YES マンだけの集まりでは意味がない。むしろ異なる意見の議論（論争）である市民対話とアピールしていいと思います。職員も寛容に受け入れてくれていると思う。コンパクト、コストダウンもあるが、コストが減れば市民がやることは増える。高齢社会になる中で、市民がやらなければいけないことも正直に言ってよいと思う。今後市民としての役割を考えたい。ファシリテータを交えると効果あり。
- ・ 市民への発信力の強化／若い人の巻き込みが大切。これは永遠の課題かもしれないが、将来、実際に本庁舎を使う若い人が対話に出てきてほしい。
- ・ 鎌倉は東西 9km、南北 5km だが、地域エゴのない、権威主義でない、オープンで市民主体の、寄り添う暖かいエコなサービス機関としての市役所になってほしい。AI・IT 化による更なる削減など、鎌倉のやる気を見せてほしい。鎌倉は歴史的に、意外に新しいことをやってくる。

## (6) クロージング

- ・ 閉会に当たって、参加者の皆さんに、市長が謝辞を述べました。その後、参加者全員で記念撮影を行いました。



挨拶する松尾市長



参加者の皆さん

### 3. 今後について

これまでの5回の市民対話を通していただいた意見は、鎌倉市本庁舎等整備委員会に共有しており、「本庁舎等整備基本構想」の検討など、今後の本庁舎整備に活かしていきます。